歌集

新編

上

物集高世大人編輯

類題毬春草集初編二冊

葎屋社中蔵板

大御代の恵あまねく帰る春雨より
芳草の色深く萌出るをもて二字
の名人古今言の葉も大八洲の國
も世の中も此なも志ル義
盡きせぬ物ゆゑ歌人そのみ
名あらはせる物集高世の手もまたみ

おくつ彦くに主命の高世ぬし
有学の師とあり都ハ豊前國京都郡
津積の里なる廣幡八幡の皇神に仕奉
森原敬臣直孝

三浦勝也

文字ハ記しまゝ漢学ハいまだ知ず古語を主とき
まゝ古傳ふハいまだ知ぬ之ゆゑ古語を主とし歌ふ主く
さゝ句多此頃ハ天暦延喜神代
きうおもり古語を心をくる郡ハ学ぶる郡のて
功原うる主抑此集も草野數男暇の折をおい
今世の秀歌ともをういあつ兒らまて秋を歌の玉
のら郡ぬこのくやをつきさてこハ古傳を主とき山ハ
なる歌の思ひをおくり給ふ古典のおくつ彦

てふ花鳥風月をあつめ一もの心
まて此後和集等の異名おらさる歟あちを飛て
神なつかしくおほくわらふ大御代の
この世のうやうやしきをさくもち

安政四年丁巳春月

西園直養

岩崎興譲

類題春草集 初篇上

春

立春 あれとそ行年ことし岩屋戸の
もうもうく去年のそれにあけそめて
春立てある朝日かとてをしきりぬ代代をへてあくる春哉

定村直孝
中野元固
高橋保命
南宗備
十市安居
平井正民
渡辺照信
村田周徳

春といふ名のことさらにあらためられしにも
雪ふるさとの梅の花かな　河野通明
鶯の谷よりいづる声なれや　小林春野
都さえ沢田のこりうちもとけてなくつゝぬく
雪のふるをちのたゝくをさゝにみるうつゝにて春ぞきたりける　荒巻菊子
ふる雪にうさく梅をさそふとてうそをくらまもよふやうらん　二宮直子
山立春　とう〳〵と杉の戸をたゝくをうぐひすかとおもへば雪の音　長澤伴雄
海立春　あしの屋のまろねにおもふこともなし浪をもるかぜのおと　荒巻景福
名所立春　うぐひすのけさよりなみていせの海のいそうつ波にまづふけり　直孝
くらゐのゆげうちうつ春もあつまみの嶽をもけふよ　物集高徳
雪ふるもをとこをみなの年ごとをかぎりもあらぬ春ぞ　村上義暁
都鄙立春　内日刺松のうれみもるくとひもをうけてもそそるる神　直子
山家立春　とふ人もあれ山里のうちつくるまゝにおもをつけくまを　元固
閑居立春　人〳〵らぬまがれうよ苔むしろまくらひもやうたゝるをし　高徳
禁中立春　百官やりて月の宇宙よりけさ春のひかりもさしそふらん　直孝
関立春　おほぞらの雲のしみつやめるもむんみやこへちかき春かぜ　堀負雅
あづまぢはおほぞらの雲をもみなおほぞらの雲をもみなおほぞらの雲　溝部珠子
おほぞらやゆふつけるのあれもなほ雲なきそらにて春へだてけり　奥村寿胤
市立春　りろくふけさかあすをそひて市のちまたに春へだてけり　高徳
年内立春　一年にふたゝびとをうけてもそそるる神のをうけてろ　佐永陣正
くれもする年のをうけてろうまやひれまやん　熊代繁里

そのうちに春立ける日はあるをみて

けさなれやまだ風なくうけ今やとまつくまうん　杉原勝成

雪中立春　春ハきぬそゝくうめぬりうひ一ぢや大治のころるあるまうん　元固

みるとて春ちかみのそらめにふやまをもふとおとて人を　荒巻負子

春たちぬふやさひるとゝ梅えふつめれるまをもちうひてやえむ　玄昌寺境

立春鳥　あらみのそくれ〳〵おのをつるをたてまちうつ時を告うり　未廣弘光

立春霞　ちるのうち日は大宮のたゝみうかるとうりや霞ちるあらん　繁里

元日　あらみのこの一年ゆさけさもしるれ人ふくのひうけありうり　松田直只

きのある朝日のあこ社人ことのおりてにみそ〳〵いそ今朝哉　繁里

大きとものくまるものふちうれのふちうり　麻生武蕃

元日立春　正月ち、あらたまるそのうけと名をおもちまふくへり　竹村茂枝

百歳ふ！けるふ月一日に

ことたうふの式のつゝくしたをやうく十つゝ人の妻ふむくへり　飯村春樹

卯杖　ちるうふの卯杖の柏椿八ふ代ふめでうめ〳〵ちうけり　物集春子

たてまつる卯杖やちとせふみとにいうちうくふ鬼ふをさを

暑水　天皇に今ねてまるるふゆやる雷のみつたちるふら雨　佐藤定矩

新元のふゝさうえうる新たうくちやふ板井のけさのろうる　倉成直孝

竹村茂王　直孝　直幸

賭弓　ことのこゝろゆつることもあれをこゝろ矢をあてそふ紛はさゝへ
　　梓ういてのおとそれの名をあげそうあゝやうあゝうん　渡辺明

初春　非代より今にうつゝぬこのはのむはく春ふもちうにけるか　長谷川清秋

　　春くるにゆつるなるあれあゝこのはつみ川　鈴木直道

初春雪　さえくりふりそめぬ春きぬとやこゝろ　宇都宮知足

　　ありけめるやまけあくれ山風の雪ふりつゝもをとそしるなる　宇佐美祐之

　　三月はたゝめつゝ山里をとゝひて

初春雨　山里ハたゝるふれもあゝ　照信

　　久ゝこのをゐのきの春そなゝ　周徳

初春霞　春ゐるうれゝさゐにつゝまし　春子

のとかなる春にとゝゐ一ま一をゝ雪にを梅乃枝とてる子門　宇佐美祐氏

ふれゐる民のかまどのうちうちのゝみそあくる大やー　加納宣也

初春鶯　おのをとく古巣を出て梅の枝よりをもをおそ一とそるうちく　犬飼知言

　　つれあくて拙松のそるまでもその春ふをしるうゝのあ　長田美年

初春見鶴　ゑゐくあゝうさめる鶴の毛衣にをゝ　伊藤重枝

　　あれを浮若菜の水うちとゞめてあをくるそうもあやゝくん

初春興　春日野の若大のをまもれをゝ　手嶋直行

　　風さゝふ梅のまゝひをしるくそいをうひをの君とゐてう一　宮川経一

早春山　ほゝみとり眉ふとりあるまゆ梅のうゝ花ふよあゝ第にあり　和泉義直

　　るきくぬをもれそうよゝ初れうひさゐにうれむとゐんえくり

早春野　弘光

早春海　元固

山家早春　田所顕豊

名所早春　佐野尚孝

毎山有春　渡辺重春

春風解氷　飯田守生

出雲宿禰尊孫

青木典則

未廣周徳

光明

春色浮水　直子

梅柳渡江春　戸早定教

待子日　周徳

子日　荒巻興道

森本忠厚

子日若菜　高徳

有田高子

子日松　尚寿

安居

荒巻景直

子日　友引つゝ出て子日せし松の下ちかへよ千代の友ちどり　経一

子日　興引そへて子日の松の下ちかへよ千代のあそびもとゝむ　高子

子日　山もかすみもろともにふりくる雪のうれしきみゆき　景直

野子日　万代をみてひくべき春日野よおふるは松の千代のためしそ　中嶋孝経

田子日　あさつゆもひの影にさしのぼる朝日をうけてひく小松原　景福

若菜　おのつゝくそつの春はかの子の若菜ぞあまたつむらん　景直

あしの山のをそ春をまつそのしるしありけり里は松ふりにけん　陣正

一日にハ一把つみて七把のりをハ七日をりて　守道

味ふりつゝ朱ぬりのめをたゝしみのりをたゝす　尚孝

君妹ふそてくへのりをけゝ　直幸

りをおふそてくへのりをけゝ

勅つゝの若菜ちつゝまれてもちるをうけつゝ　由周

雪中若菜　あしたのをふりけゝのこおひ　直樹

七種にあまるかこみの一把ハつゝの若菜にまさる　季秋

つむをおそろしとところをかゝりて　孝之

澤若菜　ちるこけの影ほのくのつゝまれてをくのこれつゝをつむ　周徳

行路若菜　春のゝのをはゝくこれあそしくみつゝこの若菜をそ　文則

故郷若菜　ふるさとの江村のうれ初わかなつみ　来迎寺　亀佛

名所若菜　春日野の若菜をあくにおほるうら葉をもあわれ　物集　孝之

寄若菜述懐　春ごとのうれもとの数そとくおもふ事　佐久間　英子

霞　むくるものうこそなるをそめてみよ山ふもとうすくたつ霞　後藤　種

立にくるあのをあくれ行ふもゆるる水のうすくしも　利哉

あの日のはるけき空よ春霞　景福

天の原そこをゆきかふ春霞　直孝

久方のそらゆくすべもそれてこそやうれむるらん　荒巻　粧子

霞遠鴈　かのうへる山のあいまの初雁門のわうこそとうけ至　正民

霞光曙後般於大　立つくる雲もうすくれもひて出る朝日うら春　物集　政子

朝霞　雪ぎえのあけぬ初日に初りてけり　元圃

夕霞　春の松乃色をも日をみりとやふくれむやくありけり　陣正

霞隔樹　ふつくと向乃岸のうめの花春雨ふれひくく山の淡みとりふるや松のしげきらん　正民

松上霞　まきをそおろその松のたうひけふのうらみのきこみるり　珠子

山霞　春ごとつくる人の心をもかさあるこそありけれ　直幸　出羽云宿祢

さ月雨のきぬ笠山のあるこそありけれ　俊栄

う雨山橋ふかくをあるてひとうちふる春　景直

二並のはくその雪も立てひとうちふる春　高徳

栄えまくそれ松てけるかすみのふかし　高子

華　霞　ふつゝかやくそう春されはあしかきの邨

山路霞　雪もひくくとふくもをもつくまでくるうぐひす

野　霞　春のゝにうてるあのうくひすのこゑもなくもあるそのくもやうふ

うちそゝりもゆるふるの柴まよりなくのもゝへさえそめにけり

春のゝにおひそめてこそ花あくまうてそうぐひすもなけ

河上霞　岸つゝたゝやりゆんふさくれ波のうちよりやみ代のうくひすもなく

海上霞　松のあるくれ波のうへにうちやみ代のうくひすもなく

いつこより春きたれひくひすのなくこゑのとかにうらゝなるらん

海辺霞　うら波のふさもちこゑ〳〵春きたれひくひすのなくこゑのとかにうらゝなるらん

うの浦やうらゝなるうもそくなそひくひすもなくこゑのとかにうらゝなるらん

孝之

利哉　入江氏見

保命　山下蔭住

景福　畑光徳

景福　朝田御民

直樹

霞上霞　さゝ波の志賀の大わたうち春さりてそこのとくありにけるか

元固

孤鴻霞　ゆくくれ仲〳〵しかるうき舟のうらゝなるやまのくまもる

高子

嶋霞　あしたつのうちつゝ波のまくまにうらゝなるやまのくまもる

通明　溝辺

磯霞　いつこ申にさゝ波の後乃松のまをもとめてうくひすのなく

菅夫

江霞　夕汐の入江のあしたつのうちつゝ波のうらゝなるらん

定行　田中

周徳

孝經

直孝

芦くひのうもりけりやうちもめんをうらの湯はみうくひすし

まきの浦やうらゝなるうさのたくれふしなひくあやの紙そうくひすのなく

うらゝなるうくひすのなくこゑのとかにうらゝなるらん

霞上霞　さゝ波の志賀の大わたうち春さりてそこのとくありにけるか

孤鴻霞　ゆくくれ仲〳〵しかるうき舟のうらゝなるやまのくまもる

嶋霞　あしたつのうちつゝ波のまくまにうらゝなるやまのくまもる

磯霞　いつこ申にさゝ波の後乃松のまをもとめてうくひすのなく

江霞　夕汐の入江のあしたつのうちつゝ波のうらゝなるらん

盛行　竹村

重素　直江

水上霞　菊子
田上霞　堀尾三子
山家霞　景福
待鶯　川上楠夫
栽梅待鶯　弘光
鶯告春　勝田之祐
　　負子
　　祐氏
　　物集楽子

鶯　糸川重年
　　飛田在由
　　忠厚
　　幸松方安
　　直幸
　　荒巻八千子
　　西田直養
　　守田幷子
　　手島軌徳
曉鶯　譲
朝鶯

鈴木高鞆

安居

直養

氏見

光明

直幸

由周

鈴木數子

繁里

孝之

孝綱

景福

古衣清邦

景直

正民

利哉

尚孝

孝之

水島年賢

元固
弘光
照信
直幸
重素
元固
齋藤 茂子
勝田 成子
英子
譲

都嘗　忠厚
海辺嘗　景福
名所嘗　直孝
餘寒　尊孫
餘寒月　元固
餘寒風　周徳
餘寒雲　安居
殘雪　菅夫
廣石 道敬
直養

ふもといそく人のんを山のそ(川江)
松上残雪　(田中)いそしの山松のやをしみうえてあをとをとらにふのるをう郎　種義
山残雪　松芽ひくをを野のはにきくはるをみてそ　楽水
野残雪　小松ひえてる茶つみにとる人ふもれて(磯部)　興道
山家残雪　おとう梅又にてれんと里いもおもの　運子
名所残雪　ふるく(竹村)ものその　照信
春雪　雪の雨によりいつもして春のをの　盛次
樹上春雪　雪のもくまとりてふるをもも梅枝にはるく　珠子
野春雪　りし出るの茶のようふるをの(猪飼)　守道
　　重峰

梅　初開　いつこと梅にをう今ようにうけり　(嵐巻)　他子
梅　梅ふまた実のあんおおよいってあるしを　摘夫
梅枝にきのこれりとんるをものをさりをや　尚孝
梅枝にきのこれりとんるをものをさりをや　安居
うつり香もあるーとそん五時よにんきー梅よをる枝も　景福
をとうてたみかやや梅ふをおて独に香をもうつさん　粧子
文机水今もまる墨のようりもをるからの梅や咲そん　陣正
春されば梅の香さそふ風のうへ　通明
まろ枝うつりるね梅の新梅のもひく　(黒屋)　重義
次風ふ白うりあうなそうれみさける梅う郎　茂

梅花はつらなれるかうくれなゐの花あかく咲にそ見ハまさりけり　正民

梅花ひらいてくれなゐの色ハ見せつくれなゐとさくめつ　景直

紅梅

まだ梅ハあかくされたれの梅ハちるまでみてもたえ　繁里

梅盛

あさ春のかたくやあからんさかりの梅の枝ハをれてかけ風　須田宅里

香るにもうにちかく梅風かをもやうめ咲さらあらん　武田信世

雪中梅

埋雪梅か花けん残つもる雪のそこにちりをあさらん　興道

降けれ雪の花とみしそれにさく梅なく風かをるなり　桑原寿重

雪のうちに春をとゞめる雪にありとをしつん梅さきにけり　直幸

梅の木のもとに入てこそかゝるに
志ら雪のこぼれてかゝる袖のうへにきしぬハ梅の花にぞありける　橋夫

梅薫風

梅が香ハ色より人をしりけるか風もてひとつのかぞえるまほ　元固

梅花しめやかの空の春風にあらはれにほひの香をしくもなかれ　尚崎高重

咲ハやまの山に咲めらん梅か香あるぬもあるかなあし　直養

としての香をしらそへかく袖と梅さく里のかへつるこ　正民

梅花風に色なくあらはれて香のうつらん垣をしてかをる　橋夫

梅香入簾

あかりし白と風にかをるゝ梅の枝し八洩れにこえつらん　尚孝

焼香の色つゝ入ひて春風よそれのうちまてをそる梅か本　古田重剛

梅薫袖

かへ袖のうえやめてとゞけり梅よれつるまでそ袖にき　光明

梅か香ちれハのこしぬ梅か香の袖やしく袖にかをりめる哉　元固

梅薫枕

夜梅に梅か香のさくる暁ハ人をみさめしてをもてもそれ　高徳

曙梅　　俊栄
朝梅　　照信
夕梅　　安居
夜梅　　工藤 宏輝
　　二宮 兼有
月前梅　　安居
　　高田 頭鋤
　　蔭住
　　孝之

清月梅花　　直幸
折梅　　文則
折梅贈人　　楽子
依梅客来　　正民
遠梅　　村田 周正
　　小松 正盛
　　元固
　　景直
野梅　　忠厚

河辺梅　池水にうつくしき梅のさきそひたるえやきの風ふきこるもきて波のよりかゝりたる梅ふ
　　ゐとをうつるつゆとやみえんかも　高重
海辺梅　うらひけるあまのあみめにかゝれて浦の苫屋にかをる梅の香　繁里
岸梅　苔茅つもるさきにちる梅の花むもるゝみふるまうけもなき　菅原四位重任
水辺梅　うかれ出る梅の下水あれ行くいほりの白ひけくらん　難波春津
　　ふけ行く夜すてうちる梅の香をうつくにそてゝもむとおもふ　西田操子
社頭梅　きるぬさのおひ風ふとるおう社のみすのうち迄やさそひけん　直樹
関中梅　春をとゝめてとゝまらぬ人の為一枝ゝさくとも　高子
隣家梅　本垣のくゝりた風のあらふ梅う香さくやうちまうくる！　義年

里梅　よろつ代うつりやまえて小さるあく里のやふく梅うをうあり　繁里
故郷梅　梅ふもあたなるあうといわれしとふる清のみやひてやさく　在由
庭梅　ふるそとさくふとりおふ表風ふ白そとさるやふの梅の香　忠厚
垣梅　梅ふをうるおふらぬ垣てにへてそ香のこめてみつるか舟　摘夫
落梅　ふとそもくもあれのを梅ふちひ散ちめと告てうくひすのあく　直幸
　　ふの面のちりぬる梅ふをうれるをてゝいめる夕くれふさひしく　道敬
夕落梅　梅ふもうこひしくもるう梅のもるちる　高徳
梅花落衣　沙のよにちりてかゝれる梅又ふいあやしくうをるもの衣ふ　照信
落梅浮水　ふるうふふうれつるそ梅の香にふれる　忠厚
　　　元固

柳

文則
光明
在由
景福
伴雄
直華
繁里
高子
攸子
孝之

陣正
光明
道敬
孝之（一首以茂樹）
道敬
春朝（佐藤）
平直（川江）
景直
義直

柳辨春
風前柳
〃
月前柳
雨中柳
水辺柳
河辺柳

春雨のふるにつけてもいとゞ
六田川さみだれすらしもろやまの
池辺柳　池水にうつるみどりも柳のみ
行路柳　春雨にしだれてもゆくみちのべの
春月　いとゞしくうるみもそへてもろ人ゆ
大なごの春はさくらのふりにけり
春はあのうらむ月みもあらし
さく柳のうれむ月みもあらし
きくふれてさえ白つゆて大そをふ

定行
須藤
藤子
安居
景直
安居
吉永
秀和
高徳
橋夫
榎本
繁蔭
定敬

春月曉々　ふるさとをたゞてゝ作もあるぬ人
春月幽　もる秋のあるひとのこゝろをぬそ
深更春月　山のやみゆくものきはをハ
花間月　桜ふゞのさうの枝くう出
月一ろと忘れ一ふの木のるよう
樹陰春月　雪のふれもるもるなる桜
山春月　谷ふゞふゞる桜のあるの秋の月
山月映花　さ一ぬる月ふまやもあんをの
野春月　塔ちる文政のう秋の月秋

小野
重英
道敬
周徳
中村
維良
孝之
中嶋
廣行
鈴木
臥山
興道
直子
中
言林

あさうつるそらのいろにもあるかなと　後藤　眞守
河春月　よし野なるさ谷のうぐひすなきてこそ　藤子
　　春風のたゆみ不用てふかみ
江上春月　みつしもおもろにてて湊江の芦のわかをこゆる月うけ　茂枝
山家春月　松の戸のひまとおもひをおのれとやちるのつき　上田　直養
春雨　梅ちりてさくらまつるのつれくと　一徳
　　ふる柳の枝より露のおちそめて　重義
　　数ふる春のあるかなつれくと　高徳
　　そのつれくとなくあのうちにおのれとちる外　里見　兼庸
　　もる人もなのみもおもをおもひやるふるさとの　陣正

夜春雨　春雨のそらもあらたの古衣　五十君　夷守
　　そのふるのみそでもやさもりしおもひ
山春雨　ふりそてふるさとおもひ尾ともあり　繁里
河春雨　ま柳のいとのうらくおもひそめてふるまり　譲
閑居春雨　竹にふるおとのみしらるあるとのみ　奈須　道一
庭春雨　牡丹ちるまのやどもの雨もおみ　兼有
初午　おさなこのみそとろにあるそうち　数子
若草　草をきてしたくのみそとろにあるそうち　伴雄
　　立ひろるものうらもあをみそ生おひそん　陣正
　　春のあるおもふみそふるれ雉ようなきやあるそう　守道
　　　　道敬

野若草　おそくとく波打ちもする　周徳

河辺若草　白河のきしのしらなみとりもちてみどりなるみそ　石豆

海辺若草　あらいする波のとくもあるまちの月に秋のそれかとぶりの　文則

里若草　淡そのふるさとのうちひろいやこぶくとをさきさき　道敬

二月のもゝつこ屋のまをとをして

さりある梅やさそこ松ちくひんもこれかもう仲　勝田簡子

きくこそこそこのもとにたちよりてつゆけき帰雁の

あをとをして

もつさをつくしとのそらもゝくに　景福

帰雁　えらんでとうそうをかさうれ　孝之

いりみかもむさをみゆくあもちろし秋の月をうとれて　恒俊

さくこえきんをてかつるかうくのかへるみのかへるえ　直通

春を私さもちのそぐかうくのかへるみのかへるえ

帰雁

かつこあそれとおりふこうろをもおもうしてやる　高子

門田ら流れえんやうそまもうしてやる　陣正

霞中帰雁

ゆそゆくあ代のえそこうをそくれ　孚

残夜帰雁

こうをとれかつこのそくもうとやる　正之

月前帰雁

やうしもあ之月をあこ旬こ雨のあこれをもてそくかつこのみ　周正

旅中帰雁

ふるさとえあもかくこれやいに旅すて旅のこえる　建雄

興道

田家帰雁　かりがねの　こゑ〻〻　秋のさりゆけば　いとゞ田の面の里　陣正

名所帰雁　あゆち潟　なごりおしくも　かへるかり　なれし門のまを　おとづれてゆく　孝之

春駒　なにわ江の　あしのわかめも　しげりあひて　春のゆふかぜ　なでゝ行らん　尚孝

春駒　春の野に　なびく草葉の　うねり行　末もはるかに　みゆる駒かな　摘夫

牧春駒　志げ〻〻と　春の草葉の　なびくまで　なれてうれしき　牧の若駒　議

庄野　遍子

針谷　重之

数子

市丸　治貞

後藤　宗憲

関春駒　こゝろ〻の　柵生の駒も　打出して　不破の関吹　風ぞ長閑き　茂

雲雀　花みそさゐ　里の春風　吹ごとに　雲ゐにのぼる　ひばりなるらん　嵐

周正

奥平　貝子

安居

種

河野　継子

興道

高徳

大野　義快

春のあさ　おもひみだるる　孝之

雲間雲雀　菫さく　人のおもふこころを　あくがれて

田雲雀　なる　秋田の苗代の　ゆくすえ

畑雲雀　山畑の　くもるまもなく　ひばりかな　宗憲

菜花　そこここの　菜畑くろく　咲きにけり　祐氏

玉椿の　たもとの人を　ゆきすぎて　尚孝

さそはぬ　ものの　そこここの　花　工民

遊日　あすや　花の　ちりぢりて　孝之

なほ　残の　松ばかり　道明

遊絲　春の　ゆくへを　なげきつつ　秋房

あまつ　風　吹きとめよ　弘光

浦遊絲　のどかなる　浦のひろさに　舟ばかり　議

野遊　なびく　野のおもかげに　たつ　人　後藤守只

なつかしく　ふりさけみれば　菫さく　人　道明

春の　野の　あちこちに　人も　議

連日野遊　春の　野の　あちこちに　人も　尚孝

菜花　なびく　なびく　菜の花　来迎寺佛足

蝶も　さく　大根の　花を　高子

花　花の　木の　枝ごとに　繁里

花の　かげ　梢　ゆかしき　桜　元固

紀の　国吟　この　国もる　宵馬　山とり

三子

久保 惟易

道敬

尚孝

蔭佳

宅里

数子

周徳

勝成

守道

光明

成子

簡子

直幸

忠厚

菅夫

珠子

政子

待山花　讓

尋花　無方

遲尋花　直幸

興道

季秋

直通

清邦

景福

奥村
政方

宅黒

深山尋花　直養

花始開　景福

花半開　安居

稲光
忠哲

花有遅速　高子

景福

花　利哉

花盛　久固
見花　孝之
夢見花　安居
支花　樂子
中根　正度
數子
利哉
直樹
渡邊　重名
直幸

哉花　弘光
折花　忠厚
景福
摘夫
守道
高徳
茂
陣正
遠山　眞行
三宅　守正
折花贈人
依花待人
庭花待人

陣正

曉　花　政子

朝　花　尾峯 吉子

夕　花　元固

夜　花　之祐

月前花　英子

雲中花　守道

雨中花　赤田 正勝

風前花　孝之

雲中花　昊子

雨中花　紫山 智春

風前花　田中 正敏

山井 春蔭

黒屋 直諒

花似雪　尚孝

花似雪　竹村 正雄

直樹

橘夫

祐氏

松門花　俊栄

花交松　周徳

翳陰花　直行

竹間花　景福

老後花　正躬

對花忘身　定行

花未飽　秉之

花面影　重威

物集　むつ子

秋山　惟恭

小津

花盛々　陣正

山花　在由

直孝

村井　治世

深山花　直子

花満山　善継

牛尾

霞隔山花　周徳

山花留人　陳正

安田　氏保

桂　有彰

秋風ふきて人の心のうたてうつろふ頃あり

杜　花　きて木ひくからもまばらにて松人の陰みこちらに掛つゝ　　森　繁幹

野　花　なりけるも弱きまゝにうつろふのかちなるに花よりそくかれ　　俊栄

河　花　りもて奉はつれて咲陰もまばらの山陰　　宅里

楽水

友女　三冬

秀和

茂

弘光

楽子

海辺花　こゝは名にや〳〵潮の掛もかけめしづ心なき山の花ざかりかな　　安居

真浄寺　日皎

無生　武蕃

御典医　為鷹

大井河ちりうく花のうつせみもあら〳〵の山のうつろひ

嶋　花　海のかすみの根かゝりてうらゝかなる日影にせてうつろふ花の枝ぶりてうらゝかなる

岸　花　柳ぶかき岸にかゝりて花のうつろふのさゝ波ちりうく

関　花　うき人のゆくもかへるもあふさかの関せきとめてうつろふ花

里　花　うつろひぬ山の花のうへうつろひぬ里のさゝ波ちりうく

利哉

直孝

茂

周正

景直

山家花　譲

故郷花　無有

閑居花　赤座　国風

故郷花　陣正

故郷花　繁里

故郷花　照信

故郷花　孝之

故郷花　池田　春尚

故郷花　渡辺　拆子

社頭花　高橋　清臣

隣家花　六岡　重良

隣家花　之祐

隣家花　後藤　利隆

園花　益田　南扉

行路花　周正

行路花　有彰

旅中花　景直

旅中花　岡本　宣忠

旅中花　義暁

惜花　ちる〳〵ハ又ことしの春もあらむへしおもふ人こそ

花将散　さくら花あハてちるらんとおもふこのゆふへを

落花　世の中はかくこそあるれ一時の春はあそんと思へと

こゝろとなくさくる花のうつろひやすき

孝之　今ハとてちる花ゆへに

之祐　ちるさくらみつゝをおきてやまひせん

茂　末のよもちる花なけきそ

正民　ちる花をおしむこゝろや

正度　ちる花のみを

陣正　さくら花ちるをおしむとおもふらんさそふ風

譲　をしとのみちるやのそんなもちてすさき花ちるを

周徳　さくら花あハちるらんとおもふこのゆふへを

陣正　世の中はかくこそあるれ一時

菅夫　ちる花のうらみもあらん春はあそんと思へと

孝之　こゝろとなくさくる花のうつろひやすき

之祐　ちるさくらみつゝをおきてやまひせん

茂　末のよもちる花なけきそ

正民　ちる花をおしむこゝろや

高徳　ちるさくらみつゝをおきてやまひせん

守道　春ハとてちる花ゆへに

之祐　ちるさくらみつゝをおきてやまひせん

弘米　末のよもちる花なけきそ

久渡甚延　ちる花をおしむこゝろや

周徳　さくら花あハてちるらんとおもふこのゆふへを

欽子　世の中はかくこそあるれ一時の春はあそんと

佛足　ちる花のうらみもあらん春はあそんと思へと

景福　こゝろとなくさくる花のうつろひやすき

直幸　ちるさくらみつゝをおきてやまひせん

風前落花　陣正

霞中落花　安西 維照

雨中落花　むつ子

夏夜落花　簡子

落花如雪　尚孝

　　舛子

　　直寺

　　内田 定興

　　陣正

落花入簾　安居

朝落花　伴雄

夕落花　橋夫

　　真守

　　楽子

山落花　守道

　　八木 立禮

　　重素

　　周正

　　安居

夜山の花	重枝
山の花	安居
河落花	照信
大井川	季秋
江の上の春	保知
谷河	数子
谷河	興道

江落花	昊子
山家落花	軌徳
田家落花	寛命
行路落花	鬼佛
呼子鳥	光明
雉子	荘子
雉子	直幸
雉子	道敬
雉子	元固

貞子

野径雉子　治世

岡雉子　光明

梨花　無有

伊勢の海や波うつ方に梨花や　周正

隣家梨花　英子

ふれやふれうき時八風ぞ　季秋

董　西山清息

春の雨をたれとみよとや　菊子

ふさとの花ぞ春ぞ　直樹

土蜂　貞子

ぬすびとの八坂酒屋の庇くぐしを　孝之

ねむたうもつの小蜂の春ぞ　橋夫

もろの雨ふを見ぬ人さへ笑ふ春ぞ　景福

うもろの子うさぎとぶくことふの春ぞ　譲

春の野のもろこれの中の一花ぞ　季秋

そふちうに花のひとひらおとして蜂のおちゐる　孝之

花ふ振てあそこくもろ蜂あるーのあれ　之祐

春の野のうたみうをふとふ蜂八ちうとうやハちうへめ　吉田知之

ここのふの花のちふくちふふ　顕豊

忠厚

治負

樂水

尚孝

孝経

通明

田中 半満

興道

宗憲

数子

宅輝

直幸

尚孝

直幸

孝之

英子

周徳

橋夫

孝之

直子

風前蝶

蝶入簾

歳

芭蕉翁

蹲踞

河辺蹲踞

苗代　成子
苗代の小田の小田守る翁とは
苗代もくるとうげる世の人のいのちも我もくるる人は
五十串さす小田のこれもみなそのゆくえさだめん　楽子
苗代のみだれもそろえきねばせく小田のあぜぬりて　孝之
鮭　正民
山の井の浅き心を汲みつれば
雨ふれば水増さるるものをやしかぞ　藤子
雨由鮭　孝之
雨ふらばせく小田のくろまもふさぬ雄水　中言林

池鮭　楽子
波こゆるひのくれなゐをかくろひて
井鮭　正民
それ門の板井もそなくくろみそそくくろ
渡鮭　孝之
もろもろのふねもろもろ我ゆくふねのゆくえ
滝鮭　利哉
おちくる我の波のそこもみぬ
船中鮭　弘光
船をばなみだとおもふ我ぞ
杜若　清息
杜若よみ隈のくまもうら海波
かれぬるさうの末かるめ
牡丹　孝之
牡丹ちる廿日えんをもてあそぶ
山吹　祐氏
山吹やへをもちて我一をもつ二をもちてや

通明　検覚等琴子

御民

守道

高徳

珠子

譲

弘光

直幸

陣正

琴子

正度

孝之

直養　笠置

正直　堀尾

光久

鬼佛

之正　千家

栄子　渡辺

嶋夫

春海　尊孫

春湖　美年

春江　弘光

春河　宗備

春里　孝之

春田　正民

春水　知足

春木　定行

三浦　安之

楽水

春鳥　直樹

春虫　楽子

輿道

子正

重枝

元固

正直

譲

李狭

暮春　正民
日ぐらしの声もかすかのおとたえて
いそぐもとまるはるのくれかな

暮春　今木利次
ふるさとも見ぬ人もとふ春の日の
ながめもうれし暮るかすみに

暮春霞　樂水
ちるはなのあとをしたひて春のゆく
山路のさくらかすみこめたり

暮春花　高徳
ちる花の風のしるしとうぐひすの
声とのこりてくるる春かな

暮春山吹　重素
ちる花のつゆそこもるく山吹の
ふかきの花のうへもうつろふ

暮春鳥　直行
ちる花のあとなつかしとうぐひすも
春のこりをやなくにしらるる

河暮春　可逸
ちる花の流のしるしとうぐひすの
声とのこりてくるる春かな

里暮春　守道
ふるさとも見ぬ人もとふ春の日の
ながめもうれし暮るかすみに

閑居暮春　宗憲
世のうきもしらぬ花鳥春をのみ
おくるる山ぞ住つかれぬる

三月盡　遍明
ちる花のあとなつかしとうぐひすも
春のこりをやなくにしらるる

暮春山吹　鬼佛
ちる花のつゆそこもるく山吹の
ふかきの花のうへもうつろふ

暮春鳥　守道
ちる花のあとなつかしとうぐひすも
春のこりをやなくにしらるる

河暮春　直子
ちる花の流のしるしとうぐひすの
声とのこりてくるる春かな

里暮春　直行
ふるさとも見ぬ人もとふ春の日の
ながめもうれし暮るかすみに

閑居暮春　美身
世のうきもしらぬ花鳥春をのみ
おくるる山ぞ住つかれぬる

三月盡　照信
ちる花のあとなつかしとうぐひすも
春のこりをやなくにしらるる

治世
重枝
重素
遍明

三月盡夕　安居

三月盡　高子

くれそめて春もとくるもおもかげや　周徳

夏

首夏　陣正

夏衣　軌徳

首夏朝　定奥

首夏風　正民

首夏雨　直孝

杜頭首夏　秋葉のうらをふつひもあるを

山家首夏　山里のくさもみ

山さとの

やよさくらへ

禁中首夏　かきもやけさうみふるこひ

竹亭夏来　もゝちの

孟夏旬　かきもやもるきの

更衣　衣　もの

なの

猶葉秀智

直孝

弘光

正躬

直孝

直幸

奥道

直孝

景福

重良

更衣惜春　もゝ

早夏　神

早夏鶯　ち

春後思花　月

残花　お

深山餘花　か

谷餘花　ま

河辺餘花

純祐氏

敷子

直孝

久留島通尹

祐氏

藏重高訓

逸子

尊孫

楽子

周徳

遲櫻　直孝
杜遲櫻　孝之
殘雪　春樹
神衣祭　之祐
新樹　尚孝
　周徳

新樹風　簡子
庭新樹　讓
園新樹　高蘭
新樹妨月　直孝
卯花　直養
　李秋
　直華
　英子
　樂水
　宗憲

おもふこころをふきとけてかをるそのかぜ
あやめをぬきてをとこなきするころ
朝卯花　をぬの月ゆけばてをれるしらつゆ　治貞
夜卯花　月みをるこそさやるらしけれ　小畑宗隆
卯花連垣　ゆるるあれさこそもるらしけれ　味岡長俊
卯花如波　波ならふらんうのはなのなみ　御民
河卯花　あらてもくみのはへこそみなをしも　文則
水辺卯花　卯花のさてこそ波とみえつらめ　利次
　　しのきにうくもをぬのさてこそ波とみえつらめ
　　卯花のきしのあやめかをるまて　守正
　　波のよるよるきてやうかるらん　安居
　　卯の花のうちよる波もうちそひて　鬼沸

鳴卯花　なみてのみあやめもしらぬ郭公　石足
杜頭卯花　月よりもなほ杜おほつかなき郭公　守正
山家卯花　ゆくるやそうさうらん山里の　重素
卯花蔵宅　郭公をやとらんとおもひてや　尚考
加茂祭　法人のみあれをまつとうたふなり　尊孫
　　郭公いのるしるしやあふひ草
葵
新竹　おひたちし一むらの竹のよはひをもそへてやちよの
　　ふるまゝの松のあらしの風もうちはらひてこそいはふらん
待郭公　ふるさとをとふ郭公ゆめ一こゑやまたるゝ時をおもふらん　直孝

時雨をおくるかよるの夢ぞ友
あらをのこ園いうつくしまもあ
るにあるこそをそるのむ時雨
時雨さつゆかとうへ
時雨ゆくらんそうれをれ
ちあうんやあ
時雨こうに
重枝
直養
尚孝

元固
直子
正度
照信
菊子

遠藤芳樹

京のかりけることにて

之祐
継子
高徳
元固
高徳
陣正
直養
英子
宅輝
祐氏

時雨をよとのつうれやうれ
雨中待郭公　一ふくらみてあけちくれ
久待郭公　ねぶのはちみて
暁待郭公　ちとくき
夕待郭公　いはいとくみと
待聞郭公　ふつけてきくうれさちとき
尋郭公　時をたつねもとめ
ちとくきんくのる
時雨ちもとをたつねぬ

尋暁郭公

ほとゝきすなてあせこえゆふつけは　安居
橘のえたもおゆらにふきかほる　直孝
おそきかねのひゝきなりけり　景福
山ふきのこゝろあるとやにほふらん　橋夫
時をるようひとゝきなきわたる　陣正
一あしをなてあしひきの　橋本忠俊
いつものふもちかにあみさして　菅夫
時るあやこにあやかるさとの人　楽子
時る里をとふらうれしさ　利哉
きく人やをくるゝほとゝきす　粧子

ほとゝきすなくやさつきのあやめ草　照信
あ門のあやめにそへやふかうら　高子
時をやてのはのえあけ行　高徳
いく里をとひてきかんほとゝきす　鬼佛

五月

ほとゝき高世をとひて　大典院
ほとゝきなくや昔代のつるもかな　紫龍
時るくうてはのあけぼの　重春

いくこえつゝひてかそとゝきすなくに時るをまて

おさくにるてあるれもほとゝきすなくやなりともりくも　高子
なくもほとゝきすかなくこえつゝとかくらふひとこゑもとゝきす　利哉

人傳郭公　時ゐるあやかさぬ人おくれきて侍らむ外　辻則定
　人住てにきゝてゝてゝて時ゐる汐ぬ袂うそひてちゝうう　直幸
　あゝことにつゝちゝそんくつてのよう里をとれ山ちゝくきん　周正
　ちゝくきんなゝちゝことゝなゝちゝうもをうゝゝやうゝくのやうに　箕田直古
　素まゐるくつてあゝて時ゐるうゝみんとてなゝてゝうる　李秋
　ちゝくきんくゝあゝぬとゝいのあゝきゝおゝうゝみくのゝ　正民
郭公過　ゐるてゝをゝくゝめる時ゐるちゝうゝこゝんゝへうう外　尚孝
　ちゝくきんくゝてゝとゝてときくうゝちゝにゝなゝうゝあゝ　正民
郭公類　時ゐるあゝもひうゝくゝもちゝくゝをゝちゝあゝにゝうゝ　安田貞方
五月郭公　をうゝくゝてゝくやゝ月の時ゐるれのゝちゝうゝ　継子

兩方郭公　あゝことゝめてゆゝ行くゝなゝあのゝんいうゝをくゝ山ゐてきん　琴子
夢中郭公　結ゝひてゝくゝもゝ袂ゝゝあゝをゝうゝゝあゝ　長俊
郭公敬遠要　ゑ秋のゝうゝゝ袂のゝはゐをゝうゝゝゝうゝけてゆゝちゝくきん　山田繁穂
寝覚郭公　つゝちゝくゝゝ語ゝゝ袂ゝとゝきゝゝをゝてなゝあゝ名のゝ山ゐてきん　寛命
雨中郭公　ゐゝちゝあゝとゝの杉ゝをゝ行ゝてゝをゝのくゝのゝゝにゝぐゝゝちゝくゝ　守道
雨後郭公　みゝゝゐゝくゝゝをゝ時ゝゝゝうゝうゝゝてゝくゝ山ゝきん　秀智
松間郭公　ちゝくゝちゝゝとゝゝゐゝんゝ時ゝゝゝゝ杉のゝうゝゝゐゝくゝ　利次
馬上郭公　時ゐるあゝんゝうゝこゝゝゝゝゝゝもゝゝひゝめゝうゝる　景直
擔路郭公　第人ゝゝとゝゝゐゝあゝゝゝてゝゐゝるゝゝくゝきゝんゝなゝく擔のゝゝそゝ　景福
郭公遍　ちゝくゝきんゝいゝまゝとゝゝゝゝゝゝ人のゝちゝんゝゐゝまゝゝめゝゝ文ゝゝゐゝるゝゝ　正民

郭公老　梅のふち里のおとこきんもあつめぬくめるうぐひす

暁郭公　ふるほゝ一人もいねてなをやまぬ郭公あはれさそふたちくきこえ

あつさわすれをるもおとこきゝ郭公

朝郭公　ゆふこゝろたちくるしきあつさかな郭公

夕郭公　にくからぬものゝとゝぎす郭公

夜郭公　ねとこきゝなしそのくものうへ郭公

深夜郭公　時るおあくもまこっそのの月ふちくまでもきこえよ郭公

さよふけてたゝ一ゝふ時もあふひかな郭公

後藤利匡　孝之　直垂　寿胤　文則　義年　孝之　元固　菊子　正覚寺順良

きくのあらしとあのかさなるよてもまつ郭公

ありたあの郭公そのちとくる郭公

月前郭公

てる月にやこゝろをゆるすらん郭公

月のやとをもらすく時るうの郭公

をうようくも郭公つるをちかとちてもきく郭公

さもあるをるの月にさそはれ郭公

山郭公　とゝろをこゆるあるへつをもとめてなく郭公

このものとやよの塵よなくあるやきてもきく郭公

深山郭公　もまかる枝のもみ山本てゝそ郭公

閑郭公　時るよ今年のもとくとちてこそきくとよ郭公

景直　數子　重素　河野登志子　泉田正熙　舛子　矢野義和　清息　知足　陣正

杜郭公　むべなるかなの杜の時もちくるこころもちこそまさ　光明

関郭公　時もなるかなるに始うけぬる杜をくありけり　橋夫

里郭公　此庵にこそえてたゆく時鳥をきくや実にもとくむれ　景福

みしりあへふ彼の雲も招きつゝもとき人ありけり　児玉　志う子

あつまたにわけ入てもたえぬ声ありとしらせよ杜の一こえ　忠厚

郭公の実におとれかとうたがひきかなのをつゐにゆくらん　負子

茗荷山実なる人やちゝめけんをのうてもるおとくきんかう　尚孝

里郭公　時なるなりの里のみすゐるに始めてきくらん　直孝

是非なしとも里おるをきくるまりやよおとくきん　清臣

ふるくなのゆふんかと里そとくおきつれ　景直

里とんぬそるとゐる時もちてとをみやさうらん　卧山

みてもろこんとをもつくはくきゝかきうの里　寿胤

時なるしく町もち里あれてゝ一あるよあんてうけり　橋夫

時なるとゝのつゐうの夕くれのてを　磐

河郭公　八幡ふさてやくる時をもつくく

ふるのうけるとゐ流をて時なるをもつくく　成子

時なるみやこいそくもちゐとゝ人ゝらんや　横田　叢正

渡郭公　みやとくもちうとゝ時なるもちくく　脇谷　端之

山家郭公　おく人よもやとひんもとゝ時なるうか　伴雄

ゆくゝゝとゐるこのたの句おきおく時なるうか　季秋

時なるもちんおふつやらんもあこくうんもちおめて

こゝろかれハまつて山ちかきほとゝきすあはぬ山のうらみハこれそ　堀 祐吉

田家郭公　あら川の山田のかは苗とる旅もまつなきてきくほとゝきすかな　高徳

旅宿郭公　草枕たひねてきけハ啼てみやこのかたへゆくなり　之祐

こゑをとめて絶ぬ名をも床にふしてねさめて待ぬる夜半の月かけ

ほとゝきす鳴つる声をたつねてはすゑなとの月あらけん　三子

名所郭公　こまかくなけるをよそにきく時はさそかしよしきかとおもひけてなく　直寿

すもちくなけは聞くほとゝきす今ハ過にし年のまゆ山　磐

待乳山なくさてほとゝきす江戸の月にとふらん　恒俊

郭公帰山　こゝろあるのふ鳴ハこゑたかくぬつゝみてもゆけ山ほとゝきす　兼有

夏至　こよひをもへはひるの永き日のみしかくもなくくらされにけん　東守

菖蒲　こゝろをよそにかけてもあやめの根ふかくそみるなり　寿鳳

打あふくあやめの露の一しくいつくの根のふかきそん　可逸

澤菖蒲　あやめ草おりつゝゆかは沢水にみさひそ人ハしるらめ　高徳

ちとせあふ汲のかさねかゝくもあやめ引れて袂をそるなり　八千子

沼菖蒲　ひかれてもふかき沼にしもかくれぬのあやめ草こそ今宵ぞしられん　柳子

池菖蒲　ひかりやうつる池のおもてにさしそへてもときく代々にかさねて　智春

葺菖蒲　軒ことにあやめふく家のまかけとあやめをひきかけり　須田 宅由

ちとせまてもふきそへつゝあやめ草かくしてなかき軒の玉風　重剛

五月五日　あやめ草かゝるためしをとふ人のあくしくもとるらむ　御民

競馬　のる人の心のこまの行へをもかけつゝちからもちたれみえにけり　繁里

早苗

雨中早苗

雨後早苗

河辺早苗

橘

鬼佛
陣正
樂子
直樹
善正寺
淨曜
正民
宅輝
數子
陣正
道敬

ふるさとの花橘をとうとめてさをとめ

橘薫袖

孝經

橘薫枕

陣正

五月雨

橘

直車
直平
尚孝
高子
高徳
直幸

さゝうれのはゝ女神をつくりてそのきるのそ

樂子

野五月雨　むさし野はゆきかふ道もたえぬまて五月の雨のふりしきれは　有彰

滝五月雨　あまくだる滝のしらいとくりかへしたえまなきさみだれの比　重春

さみたれの雨に水増てあられぬ谷も荒まさるらん　安居

名のみきく音なしの瀧も五月雨にまさりてたえす落るやらん　周正

河五月雨　さみたれは谷の小川の水まさり落くる雲のみなかみもみえす　珠子

晴つくすまもなくさみたれはよそにもみえすかはなみのおと　興道

浦五月雨　塩やきの煙も立すさみたれにあまのとまやはいかにわふらん　義年

五月雨にしほやく浦も絶々に煙も見えぬ浦の夕暮　直孝

五月雨晴　あつしとてみなむすふまに晴ぬらんさみだれ[illegible]五月雨の空　重名

五月雨の雲もおさまり[illegible]月のかけこそさやけかりけれ　利哉

さみたれは玉江の芦の葉末まてみなかくるゝ[illegible]　守道

さみたれの雲をもやりて照月にやかて夏の空そすみける　楽子

夏草

かきわくる人もたえたる道にしけりにける夏の草　正民

わけ入るもしけき夏野の草むらに[illegible]　興道

庭もせにしけりてかくす夏草の[illegible]　菊子

野夏草　みるにつけ[illegible]夏の野の草のしけみ[illegible]　安居

瞿麦　あさことにやとりを見つゝ[illegible]　治貞

[illegible]なてしこの花の[illegible]　李秋

咲てこそ[illegible]　直子

瞿麦露　[illegible]なてしこの花の露[illegible]　重良

水雞　　道敬
光明
橋夫
夷守
安之
田中
正準
菊子
尚孝
之祐
直子

晩水雞

朝水雞

夕水雞

月前水雞

雨後水雞　　安居
社頭水雞　　文則

夏月　　貞方
弘光
元固
守道
樂子
村上
蝶子
祐吉
淨曜

夏月易明

夏月似秋

雨後夏月

夕すゞみ[illegible]の葉末[illegible]月の影　之祐

谷夏月　夜[illegible]月[illegible]　孝之

河夏月　[illegible]河の[illegible]てる月[illegible]　攸子

江夏月　芦の[illegible]風のゆくへ[illegible]夜半の月　有彰

浦夏月　[illegible]浦の月[illegible]　英子

田上夏月　夕ぐれ[illegible]月[illegible]　守道

竹亭夏月　夜[illegible]月のうつりて[illegible]　蔭仕

[illegible]月[illegible]

夜[illegible]の影も月のうつりて[illegible]　興道

蚊遣火

夜[illegible]の水の[illegible]月[illegible]　高子

[illegible]　安居

[illegible]　利哉

月[illegible]　景福

[illegible]　忠厚

[illegible]　直幸

深夜蚊遣火

[illegible]　通明

隣家蚊遣火

[illegible]　井村義信

山家蚊遣火

[illegible]　高徳

遠村蚊遣火

[illegible]月[illegible]の里　重枝

海辺敗遺火　りんやくなの松をやきつくす蜑のみるめもうらめしん　英子

鵜河　なの字のほこもむらひもありやえなおおりこめやてる月の桂のかつらみやこをせてとかりさんちめ　高徳

瞬龍河　夕月のみけうもうひみやこかりさんちり　忠厚

照射　五月やこうりにもるうり人ふ庭ふおもへをうみてもちりけり　正度

えこの本の下ぎやもたんくんより北出る新土あるうもある　定典

夜更照射　ふりくるみ大事の新れやくもちりけり　直卑

暁照射　宵こるみくも大事にあうりのみさーうり取ふおるり　照信

擧照射　ふりーさんむりふの宵のひうれなくろうこあまふ　兼有

第松山そのうりもちてみそうの里安ーて　童春

周正

原照射　りくらつの森のその松とあるこ敗宮の承　文則

雨中照射　さみこれの雨取のまうやさやうこ　直孝

蛍　えおおにもそうく当てる月のいうやうめ　正民

くれ初めもうのみくれるりのひこれをしれへもちりけり　惟寛

えおのみてそこにも宵のひこれをしれへもちりけり　攸子

そふうう大をあーつうう附ふこ松ふのふをなめりけるる　高材

えおのたーのそーしく附風をつめふそれのふるうろうめ　菊子

風さそふみさのふのねみこえてそあるこをのやりくる　継子

いの風のちひく柳の事ふよう系のうめねくふるれ　梅里

えれさをてみそうろうふのうめねくふるれ　艶方

なつれはうみてしして谷に水をとつる谷もゆかりさうりぬ　財前仙翅
ゑがそうにうくいかをとらんそ

螢似玉

天河さゝなくみに消てえて夜の星とえゆるかりされの　譲

ともやめて玉の露のみをしとつへハわさる法をかまりけり　元固

ふくつるむしとんいなつまに風よつくかゝるなりけり　忠享

雨中螢

夕立のきたりしかさもおもしあつるきのまどの風の　亀佛

雨後螢

ふきそう新樹の月にひとしつくおちてひかるかみくさり　守道

螢火透簾

玉すだれかけつる夜の月よりもさえてかりくるえむしのかけ　恒俊

月前螢

夜桜のしみにうつるは中に月かくられと思さる　安居

月やとる草の露の毛しむれひかりくるかなと夜なる　安之

月てらん門田の苗の水ぬるみうつるとえゆるとひかり　亀佛

本かられをてらしはなるゝ夜桜の月にかくれひかりをかり　忠享

てる月にまえるれくゆかりなやかにくとまりよ風なる　元固

叢螢

みつるくさの露にひかりあひてまたく草の秋とかるみ　荒巻景纯

窓螢

さしこめしむしのまどのよひかりひいさめく風まと窓の　重枝

なかきくる窓の影木にて風まこかなゑかへかゝるかなけり　明

行路螢

松の火もなかをあかれとおさそくるおちの赤く家なる　利昔

山路螢

よる谷に山路をめぐるかゝる故にはその谷かまよひおもれん　弘光

澗底螢

かる秋なるまのしの秋の谷のみにうつるえんしハむかるえく　粧子

月のしめ木の下陰の谷かまよつれひかり八澤さるなりけり　菊子

池　蛍　使くるてるやうちみをみて夜のふ屋もくやくとも　貞子

河　蛍　波のやうちくるものきて〜ふとそもくる　季秋

天のこちるのうちもを秋うりのうみくとそうて　守正

秋のくうのちるむとひ波のうみてもけつうやも　宗憲

古由のそそひ柳みく風うみもうみ　重義

につて当夜のおみこみけうう弥うやうちを　治貞

風けるうの芙みをおうこうちをふそれあるぬ　飯村仲子

にをあうおくくうきのふ波のようそるもうふそれあるぬ　直通

波のや波のくるるうくてうつくおもうふもくる　孝経

海辺蛍　夕波やすふみうくん入にあるる芦のようやおもうるとひうふ　河野通尋

五月雨くうくのせとの池もちてそのふ屋よりうそふもくる　繁里

板をくく残るの影おり於〜あみのめくうふはさる　沼澤豊秋

伊勢のあやはにもきさに拾めたむとみてもあくる　数子

江上蛍　夕月のうみも入江の波のとをこうくうかひのふれてや来　小川蓉

田上蛍　かの田れそやちうんせれうくおもくそうひなやもをく　孚

田家蛍　きのふそうを一門田のむ〜せ若れてうひなやもをく　元固

蛍火秋近　秋をれ初のこのふの夕ふふひうのそくゆくちうる秋　智春

夕　立　れそのあのさるひうしふくようもそてくふゆあちふる　元固

夕立のくまりて以秋のをそとるみそるくそうふ　楽子

風をやそうふうをふちる秋のをもそうぬ夕ものそう　楽水

夕立雲　忠厚

名所夕立　氏保

氷室　元固

夕顔　守道

忠俊

重威

利哉

景福

伴雄

弘光

蓮　利哉

蓮露　景直

蟬　周徳

弘光

兼有

蔭住

季秋

利哉

高鞆

専徳寺智圓

数子
孝之
義暁
亀佛
兼有
珠子
田口 逸子
荻原 廣道
照信
楽子

凡扇

扇不離手

泉

光明
孝之
義年
道敬
菊子
高徳
茂
通明
利哉
元固

正盛

忠俊

利哉

通明

高徳

英子

通明

清息

正民

興道

照信

弘光

高勲

直養

興道

橋夫

直樹

竹木
浩竜

船中納涼　風生竹夜窓間臥　通明

晩涼如秋　奥道

竹風夜涼　莊子

夏　日　兼有

夏　暁　通明

夏　朝　楽子

夏　夕　弘光

夏　夜　景福

半滿

楽水

夏　風　弘光

夏　山　高蘇

夏　谷　楽子

夏　河　重春

貞子

安居

知之

伴雄

祐氏

立禮

夏山家

夏田家　清邦
夏　鳧　伴雄
夏　虫　高徳
夏　虫　忠厚
晩　夏　夷守
晩　夏　奥道
片山　友道
重枝
景福
尚孝

六月晦

忠厚
重峰
利哉
直幸
祐氏
光明
弘光
景福
正民
利哉

みそぎ川のちぐさもうれそうろう　忠厚

河あらにえやあらぬ　みそぎ川　秋乃ちぐさ　欽子

かくてこそ　井にくつるみそぎ月のおかげもそうくおきまよあてた　照信

名所夏祓　往来のそくのみそぎもたにいきつまりそうろう　重枝

秋

立秋　秋風のそうそうくと萩の上をふきわたる　利哉

あさましやまだいとそうえんえのこもの　景福

秋風のそうとまつるそうろうをまねくらしく秋の来ぬそうろう　安居

もろともにあはれをしれや秋の風　正民

秋のそうろうへそうろう千里もおなじ秋の空　景直

六月立秋　かくさとの杉の板をとそうろうみそぎをものまつる秋乃そう風　上林諸史

七夕立秋　天のあ世にそうるかさねの袴をそうてや秋もきあくらん　磐

立秋風　袴のもよかまもろくくぬ袴ようもの秋のそうろうぬるくこの風をそうろう秋きぬと思うまうらう　恒俊

萩の上のそうろうぬるくこの風をそうろう秋きぬと思うまうらう　高徳

主秋露　正民
立秋萩　大伴宗定
水辺秋来　重枝
幽栖秋来　橋夫
初秋　逸子
初秋風　中嶋廣足
　石足
　祐氏
　安居
　蔭住

初秋月　繁幹
初秋露　坂西正雄
初秋虫　重春
　順良
早秋　定典
　守道
早秋萩　光徳
残暑　景福
　照信
　直樹

杜残暑　秋をあさみ夕浪さむく立つる杜の下かげ　氏見

待七夕　うたたねの夢の世の人めさへ松桜なほうつろふ春とちぎりて　御民

七夕　松桜のまつはあまたるくみもろに天のあけゆくそらぞうれしき　直幸

吾背子をいまかいまかと天のとよかはらいつもひもとくらん　蔭住

天の戸をとまれとおひし雲の上のあさせをたえてたつけれ　楽子

なかつもあさふひにをうくひすやいそ海松布　守正

天の八十綱うけてうらめきしとをしひこの引やそもじ　陣正

天の戸をいつこともなくあけやらぬ雲やはるかん　直孝

天の戸をいつこともなくあけやらぬ雲やはるかん　孝之

七夕河　松桜のあさせまつまの浪よりもたえぬみつ　御民

七夕琴　ふれてたむる琴のそらねさへ秋を　浄曜

七夕衣　うれしさをそふひつまんたれそこころの神ひろくなて　直子

七夕草　夜更におてこもんのゆふ露　惟恭

てものこのろけそいく秋とうけてうかをめちさうちるらん　直子

海辺七夕　いまもなもそふひやをるもありあひの名にたつ浦にみるめまもて　高子

閏月七夕　ふた月のつつある年ふるれこそ一夜ひとよあふ　高徳

荻　おなしさまのあろれをそ秋の風そよくあり　尚孝

おみなへしこひもこくもさて荻の秋の風そやうたふ　弘光

秋風のまたそしらくもみえぬまにあらしやふきぬ荻のうは葉　照信

荻　風　お池のそこもかくれぬなる荻の秋のあさ風そよくなり　磐

暁萩　秋のあさとこみつゝこえのおもしろきあり　片山豊樹

夕萩　さひしさのあるにあはれの外なるもうるおひ　直幸

夜萩　秋風のようやくしきりにふきまさりもくさもあらはにうちよろめくさま　宅輝

萩露　夕風のふきたちてこぼれおつる露のあはれなるさま　夷守

水辺萩　うちよろめく波のうへにみだれふしたる萩のさま　安居

草花　やちくさの花のうへにおいかぶさりたるさま　孝経

萩　おとひろくそよぎわたりて本萩をはじめ外の草花もそこ〳〵にふさそよぐもおもしろし　忠厚

こまごまと春からつみ重ねてゆくまでを代表　明

萩　萩のえだ〳〵のさまざまなるをみてしるべし　秋房

萩のえだ〳〵のさまざまなるをよくみてしるべし　繁里

朝萩　雪おもりのあさのうつくしきようすをよくいひあらはしたり　橋夫

露萩　こまやかなるつゆのおきたるさまをよくいひあらはしたり　直孝

萩映水　岸ばのさまざまなる萩のうつりあひのようすをよくいひあらはしたり　孝之　佐保蓑生雄

野萩　萩ばかりあるところにてもさまざまの萩のありさまをよくいひあらはしたり　直子

河辺萩　水のうへにおいかぶさりたる萩のえだ〳〵をよくいひあらはしたり　由周

忠哲

文則

周正

春野

秋情在萩　萩の花ちりたるのちにさくとたのめし秋へのみあてにて

薄　秋風のみちびく尾花の袖やあるそよぐ葉ずゑのこゑあるぬる

　　むさしの何かみえんおのづからこころに風もちりぬきて　陣正

　　えにうつしけるまうけの屏風のかたへに

萩風ようちなびきそよぐ葉のかたへにまじりさし出たる一枝をあふぎ風

　　こゝろもなくちりぬるをこのそこすみけるもゆかしき　季秋

　　秋のをとは尾花うら枯にまかせてもらめそこととはゞ

薄　露　秋風のみちびくあまたの露ものみ葉ごとにやどるらん　正民

風前薄　おもふことこゝろのまゝにそよぐもの末葉ごとにやどるらん　宅由

月前薄　ふるめにさやる露のちりぬくとたのめし月へのみあてにて　一乗院

野徑薄　萩ふみわけてとまりをとゆくてよりあとうやのく花やなるらん　弘光

　　旅人の袖もひろつみまねひたまひし給の尾ふり秋風ぞふく　守道

女郎花　をみまくとなちかくよりてこゝろやとうせんのくあるかたくもなびくしうな　孝経

　　秋のをとをまつるにおもひなしてとそたのめしうらみもあるかな　守道

　　ちぬめのこちきおもるをみまくとなちかくよりてこゝろやとうせんのくあるかたくもなびくしうな　宗方義敏

女郎花帯露　をみまくとなちかくよりてこゝろやとうせんのくあるかたくもなびくしうな　忠厚

水辺女郎花　をみまくとなちかくよりてこゝろやとうせんのくあるかたくもなびくしうな　勉方

葛　くずのうらさとあるこゝちして秋さらばかへりてきたりとも　楽子

藤袴　古郷をやるる主のたちに夜人のあとをたのむ袴うら　周徳

秋の末て朝顔のようなものもそよそよとする
きうしくもつくさせうと後待けきてみむひあり　正民
もちみるきの心のふすおものけさのようおよさうせてしおお　直樹
さたにたうふ妹うおつくく朝ものをめをひのうつくしうなる　安居
朝色のあそもをくくもをもむうおおふ　橋夫
いつしうとおもうとおて朝ものおおふみさんおう　與道
朝ものふさくうろしようおおおよおおおうう　順良
朝ものの朝おくよさくうろうり　譲
おくまれきおれやてもおうそうろれおおのも　正民
書時よ治てうれ後をうつまたもおみやせうあさらの　定與
　　重素

元固　まのうみうもれやくそのうたさくやまうものあさうものなる
定行　垣たてまつくく朝おうりくてもおさうふうり
弘光　四朝さん娘の朝色ようおおくもおふあくぬふものなうまう
景福　もろ朝やりみちつまの朝なにさうおきてふくろく
陣正　ふのようおのうろおさん朝ものふうとおて与ひうし
楽子　朝のれおてようううおひまもの朝ものなる
孝之　垣なおようおつうみやちぬんあくぬみさう朝あさらのふ
清邦　垣のへうてまあうるあさうふふ
與道　朝顔
直樹　かうやも千姓の中の一枝とう朝
　　さてうおにちひれあしうかまやのよとうおて姓風そく

朝顔

竹　萱

旅の男に宿かりそめん　陣正

苅萱露　風ふく今もみそめんかるやにいつそそろ寒のおらん　英子

月前苅萱　夕寒をもとめしかるやけやに月もみさをめうる　道敬

露　あちさうにおたてうものつゆまの寒小　弘光

秋風のひかをちくく義のをたてうものとおけう寒小　道敬

まれまれ寒の今をもろ秋のあるまでいとう労みむ　陣正

よるひるの月ひとのすき事のちうえおうう寒のさやけき　楽子

朝露　旅の男うかる船つなのつゆまちに　橋夫

あさちかの寒のおきいさうしにおひてうにおりてうらみ人ちに　季秋

野露　おもたちうふをつうの寒かやの姫妹よふく寒ちみさまうん　利哉

野径露　旅衣つるよせうる寒をとふさうにおりおさうう　周正

閑庭露　人さうぬ花ともちくてのうつうに寒の寒　継子

霧　ちうくとうるちりうる山ちうりおいつくう妹おうたうまうん　臥山

月あうつう雨の旅のちおうくとうひとうる里の船きて　磯田春郷

みふをにうくく春おおりけうう寒の波のうえきう　祐氏

河霧　きーこのうちうと見いかの寒のうくちうれくおうけうう　橋夫

みはうるにおうとくうえおおうつめう　文則

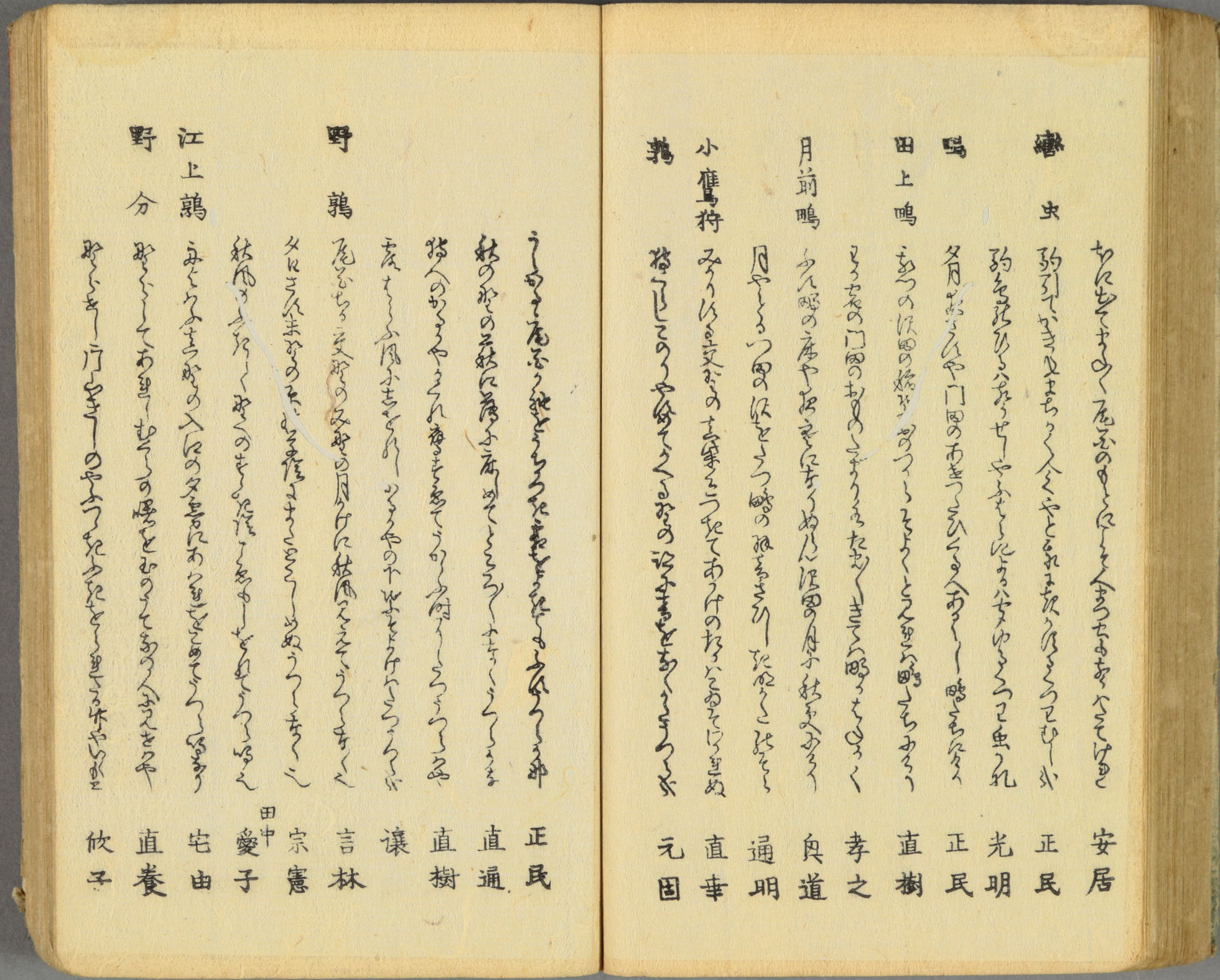
海辺霧　いつくおうちのかうせちーうきうりおうくうちかしにおうくうまうのうちおうのきうの夕つう　本間素當

旅中霧　花うーのちふかしにおうくうまうのうちおうのきうの夕つう　冷泉古風

虫　おおりうそめうえんおしし妹の船かせうにおうるあんまう　與道

直孝
春野
亀佛
菊子
元固
正民
英子
通明
孝之
珠子

文則
亀佛
忠厚
琴子
忠厚
之祐
陣正
楽子
弘光
則定



安居
正民
光明
正民
直樹
孝之
良道
通明
直幸
元固

蟋蟀
鳴
小鷿狩
鶉

虫
弥引てかきりなきまちくく人くやとられてねうくうとむし
弥をおくる八ツ半ゆふそら虫うれ
夕月おそくや門田のあきつ〳〵啼ちくく
田上鳴
あつの沢田の蛙なくつくそよくとうちくく
ろうたの門田のおのさまうくうたむ〳〵きて啼ちくく
月前鳴
ふん啼の声やおそくぬしの月か杜をめくく
月やくるつゆの沢をうつ啼のねもさそひてあけのおそくぬ
小鷿狩
みうくる立なの土筆をうつたてあけのおそくぬ
鶉
狩ことのくや給てくるみの記本をあくくるうつ〳〵

正民
直通
直樹
譲

うつて尾をうち敲とうちたる声もよるうつ卵
秋の夜の三秋に尾ふ声めでとうちくくうつ〳〵
狩人のかくやくれ春をまちてうつ〳〵
声もうつ〳〵風ふきうつ〳〵やのすゝきをうつ〳〵

野鶉
尾をもち交野の夕野の月かけに杜風うそうちくく
夕れさんまのそらもうそうちくくうつ〳〵
杜風ふくのもとにうつ〳〵

言林
宗憲
田中愛子
宅由
直養
攸子

江上鶉
ふとうみまうみの入江の夕景に
野分
野ふきー月をまてるやいかに

稲妻　照信

駒迎　奥道

季秋

正民

宅嶺

弘光

定行

春野

景福

元固

待月　直躬

對山待月　武延

繁里

忠厚

高子

亀佛

尚孝

重名

利哉

重枝

山月初昇
月

見　月　　忠尊

月明星稀　　正民

雲間月　　原田 文成

陰夜月　　安居

雨後月　　安居

夕　月　　重年

深夜月　　狩野 養長

月のことゆゑよしなんえうけんひとつをもてもてあそぶ

暁　月　　伴雄

停午月　　直孝

暁　月　　菅川 方長

月朝　天未明　　簡子

惜　月　　真守

三日月　　直幸

八月十五夜　　重枝

　　臥山

　　景直

　　高鞆

年ごとの月にことよせてとふ人みなのこころひとつとぞみる　元固

月前風　秋のあはれあらそふ月かげやいづくも嵐ふきぬる　若林興夫

月前霧　松風やふもともみえぬ峯の月おのれとたてる霧のしたより　興道

月前雲　眺むれば里のなかめも今ぞかしうき身ばかりの外人のこころ　文則

月前露　さやかなる月にひろひてちる露のこころもとなき玉の数かな　珠子

月前松　さしてこし杜風のまつ夜の月のいるをもしらでみしげる　景直

松間月　竹の戸の月のうつれる年のうちに幾よの人か庭をはくらん　宏由

竹間月　月照松　るゐの上もかくてや月も曇るをもめぐりて来ぬる　亀佛

月照流水　松風ことごとくそそく谷の水ふかき秋の夜の月　恒俊

月前眺望　松中見月　もるるやあるあらぬやうらんおぼつかな月のそそくこころもて見る　守正

秋ごとにちぐさのつゆをとりあつめてもる月ぞそでもぬらぬる　英子

ながめこしかぎりもしらぬ木萩のもとやうつろふ秋の風　栄子

ふかき夜のものとの人の杜人秋の夜の月のいるをもしらでみしげる　珠子

松間月　さしてこし杜風のまつ夜の月のいるをもしらでみしげる　高徳

竹間月　竹の戸の月のうつれる年のうちに幾よの人か庭をはくらん　正民

月照松　るゐの上もかくてや月も曇るをもめぐりて来ぬる　景直

月照流水　松風ことごとくそそく谷の水ふかき秋の夜の月　橘夫

月前眺望　もるるやあるあらぬやうらんおぼつかな月のそそくこころもて見る　祐氏

松中見月　景福

橋夫
恒俊

重峰
利哉
成子
寿嵐
中嶋豊足
直寿
攸子

梅澤宗通
楽子
繁里
浄曜
高徳
橋夫
泰龍
通明
光明
重名

月あらそひ波にうつて

ようにやいく浮き月まちうけん八幡山勝　川薗

瀬　月　ちりぬめくされその数もうつろうう名にあふ雨風をてう有明　楽子

海上月　あくるのにうつる月のうつるへいつまであるうきくれ　高鞠

うつれ月おきうつくもうつくしき月の外　楽子

雲なき別府の湯気のみわけ月をうつして

きよらふ佐うんのうみにお晃と接瀬うつくしある月うち　茂樹

浦　月　り浮くうつりそ里の浦のあき秋まつ九月雲ふ晃　西法寺　應信

あまおひく尾ふうち晃に新くうて月もうつるまの好う晃　恒俊

瓢　月　月うつるといひてまうつくうつる月の夏やひろう晃　在由

嶋　月　晃ちくて月をうつるうつるうれ山をかりして

江　月　弦くのうつみのうれ大うつの入江さひく九月秋くうう外

さん波不月おみうみもうくへ浦の入江うつうう

あくうちいまさうのうつ雲ふうつ細江まする秋の月

雲ふやうつうつ月うつ晃ちおうつうつ雲ふうつ

雲ふやうつうつ月うつ晃ちおうつうつ雲ふうつ

湖　月　うう風晃ちおうつうつ雲ふうつ

湊　月　みうつ晃ちおうつうつ雲ふうつ

池　月　ぬうつうつうみうつうつあけ池うつ

澤　月　ちくうつうつうつうつうつ

市中月　うつうつくうつうつうつうつうつ

高鞠

当雲宿祢　尊澄

守正

光徳

景福

重枝

珠子

直孝

重枝

安居

杜頭月　元固
古寺月　山名豊樹
山家月　光徳
閑居月　重春

天満宮法楽仁頭月

杜頭月　道敬
安之
山家月　直養
樂子
鎮國

幽栖月　逸子
荒屋月　樂子
菴　月　定教
渡辺いき子
窓　月　景、直
忠厚
雁　来　重枝
道敬
雲間雁　直孝
早朝雁　重枝

薄暮雁　守道
月前雁　直幸
海上雁　鬼佛
海辺雁　尚孝
湖辺雁　譲
都雁　守道
田家雁
鹿　忠厚
守道
陣正
寿之
陣正
菅夫
高子
元固
直樹
英子

夜鹿　まくらくに鹿のまきてひとりくるのそようひをてくもぬにそうる　安居

月前鹿　月うてやなくさをのもの　ぬなの　寛命

山鹿　いつくとなくそきけはさ川のこゑのうちそ秋のあきを　直幸

岡鹿　かくこひの思のみ笛こゑみくこれまあらく鹿のちうめおとれ　藤子

海辺鹿　笛竹にふくこゑのみ法子のうえ　利哉

水辺鹿　妻恋に月もやあとや指鹿の　寿胤

旅泊鹿　そうくすると下田の湊さうえてをくんくんくんくん　直幸

田上鹿　あしりのこ田のおもさ初りれまるこそうれうの舟　景福

山家鹿　ふさこんいてくたのこゑおちく鹿のあるもようそうそうつく　奥道

野亭鹿　秋のあのみるこ鹿をとあうのあるくくる　守道

旅宿鹿　そのれふるをおくのこてていくるうてきく指鹿のあ　福山寿　通尹

擣衣　里こえいてくかのきけからつくもおちくをありけり　直幸

秋をこうるなくあくにちはちのきの舟　定行

そのひるのこくまうれれくいてくはちのきの舟　楽子

月かけのあるくむまそれ秋こけてかのきのおをまるれ　幸之

　　守道

近擣衣　忠厚

深夜擣衣　李秋

連夜擣衣　直孝

月下擣衣　由周

松下擣衣　忠厚

名所擣衣　照信

海辺擣衣　守道

里擣衣　楽子

山家擣衣　義年

田家搗衣　　寛命

旅宿搗衣　　周徳

待菊　　登恵子

菊漸開　　利哉

菊　　周徳

　　直樹

　　蔭住

　　治貞

　　正民

　　高徳

人の菊をおくるをきゝて

手折めつる宵よりもまくさめんをてんをおくれる　　數子

きくせつふつるのふをそへてこれをおくる

菊花久　　物集分　高見

菊露　　守正

朝菊　　尚孝

夕菊　　景直

月前菊　　橋夫

　　簡子

　　臥山

忠厚

籬菊　之祐

松下菊　景純

行路菊　弘光

水辺菊　定行

名所菊　宗憲

菊漸移　真鋤

菊花宴之　高徳

九月九日　通明

弘光

尋紅葉　治世

紅葉　重枝

紅葉　逐日深　楽子

折紅葉　通尹

松間紅葉　孝之

卸民

橋夫

安居

月前紅葉　元固

通明

行路紅葉　氏見

馬上紅葉　照信

山紅葉　恒俊

高徳

高子

通尹

通明

忠尊

高徳

岡紅葉　里人の

河紅葉

海辺紅葉

杜頭紅葉

鷲紅葉

紅葉散

楽子

片山豊樹

孝之

宏由

正躬

李秋

繁里

橋夫

宣也

秋　日　橘夫

秋　風　楽子

秀和

通明

忠厚

景福

夕秋風　直樹

忠厚

義年

宅里

秋風催興

山秋風

野秋風　高子

秋　雨　周徳

正民

秋時雨　亀佛

秋　霜　弘光

尚孝

秋　暁　陣正

高子

夕　直樹

李狄

二月のちかうなりまする山の煙ふ
見ひらくの秋のあしぬとうらもと
秋夕催涙　秋のうら荻ちるみさに散かしひちてよりすき妹乃タくれ　戸部元子
江辺秋夕　旅人いうくおをなそうをうあふこり庵の妹の夕くも　重峰
秋夜　あんうそひのさん秋のあふをまをちのみさあよ　恒俊
秋夢　散るのうたのまにさあんうもれの妹ふまのゆくや　高子
秋山　みなのてるやいつ夕れさんかふくれのあるくおうえん　重風
秋日山行　秋のあくうこととあていうこのみもんれおうう　伴雄
秋野　さまおまうの妹さるみてあれ、春のうふーみまくけり　正民
　　女郎花をもつうみうりてそうみる秋のをく　橋夫
秋河　秋の日もおくくものつとひなて月ふみぶかう浦のたのに　景福
　　夜其河そうもしる舟ると秋ふうひもやまやさんん　守道
秋田　そてる年そーらくみ山向ようふ柿のやっうう泥り　寿童
　　落ふれをくのりさ田ちよそてあるより引くは付きくく　元固
　　山向ふまふかひ夏の散あの、海のうくよ秋風そあ　須藤宗紀
秋水　河そひの柳の枯ようちて月をまーくまあるまる　定行
秋魚　雪そうく深淵のさ波ふえをあてる船の月ふ船てあちる　尊孫
山家秋　ふ里ふ秋ふめーしのふのそのふのうそうふかけ　加藤春園
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　臥山
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　真守
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　信世
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　安居

田家秋　　貞子
秋人事　　亀佛
あるじの嘆れ　　浦野正孝
秋の夜の月　　楽子
秋の夜の雨　　照信
秋の夜の風　　守道
秋の夜の虫　　忠厚
秋の夜の鶴　　橋夫
秋の夜の露　　陣正
秋の夜の雁　　官嶋重樹

残秋　　陣正
秋ふかし　　高徳
秋ふかし　　直幸
秋ふかし　　正民
秋ふかし　　直子
秋ふかし　　重名
秋ふかし　　川蔭
秋ふかし　　正民
秋ふかし　　景純
秋ふかし　　忠厚

暮秋　　陣正
暮秋　　高徳
暮秋風　　直幸
暮秋風　　正民
暮秋雨　　直子
暮秋雨　　重名
暮秋雨　　川蔭
暮秋霜　　正民
暮秋霜　　景純
暮秋虫　　忠厚

暮秋　鳥　宗憲

暮秋紅葉　季秋

暮秋落葉　直卑

暮秋人事　高子

二暮秋　直子

山家暮秋　文則

田家暮秋　楽子

関暮秋　氏見

九月盡　陣正

初冬

初冬　正民

初冬月　繁里

初冬曙光　通明

井上　容寿

黒屋　橘

北原　信賢

岡本　高紹

初冬月　繁里

初冬曙光　高子

野初冬　橘夫

杜初冬　秀智

海辺初冬　蔭住

山家冬来　高徳

初時雨　利次

　直養

　直子

　黄瀬正臣

　道敏

　明

時雨過　高子

時雨雲　野田春岳

時雨驚夢　奥道

風前時雨　光明

暁時雨　直通

夕時雨　御民

　琴子

　方安

　廣足

月前時雨　勝成

杜時雨　義幸
河時雨　山名豊樹
遠村時雨　逸子
山居時雨　樂子
田家時雨　守道
　　之祐
　　直幸
　　正民
　　孝之
　　揭夫

開中時雨　高子
旅宿時雨　直幸
行路時雨　元固
十月紅葉　正民
落葉　勉方
　　孝之
　　金徳寺納信
落葉混雨　祐吉
　　武蕃
　　英子

霜堤落葉　重枝
朝落葉　惟易
夕落葉　梁子
夜落葉　直孝
月前落葉　勉方
松間落葉　尚孝
林落葉　安居
杜落葉　利次
滝落葉　忠厚
　　蔭住

河落葉　重春
海辺落葉　安居
閑居落葉　譲
庭落葉　楽子
窓落葉　望月　秀野
残菊　利哉
　　勝成
　　周徳
　　恒俊
　　春子

正民

月前殘菊

殘菊留秋

殘菊帶霜

寒草

寒草霜

月照寒草

讓

利次

孝經

守道

清邦

直幸

重春

由周

智春

高子

元子

直孝

宅由

橋逸
春輔

讓

河本
延之

高德

之祐

忠尊

寒蘆

木枯

寒松

氷初結　松苔の下なるまでとうれてあるみつを一ぱいのうちに

氷　　つめたきもまさりけり氷ハ水ハ結ぶにやあるらん　周正

岸松　あらそひもりつゝれるん雪松の芽の下氷のけさハとうめ　掬里

雪ふり　池のめるさをけさハむまりつゝあけ里　讓

いさゝ　ゐのうれしきものおのつゝようやくてまるを卯　應信

谷　氷　さゝとこほるこゝろ谷の芦を角よりかこをとくしるの上　安居

河　氷　雪さゆるかをのよをとゝ流のしらなみもつゝけにこゝろみ　周徳

池　氷　ふるかゝみの池くもるれそゝとゝけもうつゝきりけし　橋夫

池水半氷　波さゝく池のあゝにさゆ月れうこりあうん　春樹

井　氷　くみ捨ひさこのけさハ井のおのもれとぬみけるう卯　知足

霜　　朝ハさえ夜ふくいきて流るものこもりのみぞ氷ハのうれ　俊栄

立ぬのそゝあけきゝ一月新のそ　秀和

冬萩の月のひかり共をけさのあ　義年

さえ〳〵一陸のひもおゝ〳〵あ里　豊樹　片山

霜　あれあけ一夜の夜ふの記をふんとうさ記ハおとれり　臥山

朝霜　朝ハ夜ふのそらのあけてゆくさまをいふ　安居

夜霜　萩をそみあゝ〳〵ゆさゝ牛の夜あのまをゝきみふまれ雪ゝり　英子

てる月の庭にちりけるかけみえてあかくおける霜にそありけれ　元固

野霜

みし秋のちくさの花の色もなし霜枯のはらハ今朝の白川霜　之祐

野径霜

浅ちふをわけ行袖に霜ちりてかへるさむき路ぞしけかりける　陣正

おく霜よ志らしめるかへとけさるれハ月の影もむかしのちさとそまされ　正民

海辺霜

霜志ろきたかしの浦の松ひとつ行のにしよれハみるらしゆきみてけり　山本三春

河辺霜

ゆふしほりまさる小江風よ芦はちけて霜おきにけり　直孝

橋上霜

あはとふ霜みやくらん河そひのをとりみをとりにかけし案橋　重剛

ねのえくさくもりけるあとふえて野の霜しろき門の板はし　外子

田家霜

夕こりし霜さえくて妹のかもつみてひるあきのわらや　春鞆

そてのわにあさるゆるのあさらそ霜のふさく門のひつち田　今堀真中

禁庭霜

百敷や玉のみきりの朝霜にひくあさ幣の跡ハしるしも　重名

冬月

むし衾あつさやかに妹となくあかて冴ゆる月のさむさよ　陣正

冬さりし月のかけのなみちにあちれハ冬ハ氷のさひしき　宗隆

くみいるゝかけひの渦みつてる氷くまもりて入ゆる冬の月　兼有

ちるもつる木の葉のかけハ木にうつる霜や庭の月かけ　周正

冬枯のわのつらくみさむけくもすゝりつれる月のかけかな　周徳

こえしふあまさるやとハ友がきのまくらに冴る月をさしいる　照信

大あらき木の杜の落葉におく霜のうへにさえる月かけかな　俊栄

寒夜月

たまくよ雪にハあけし菊ももあろさまし月のかけかれ　重春

夜をさむさや笹葉の霜のうへにてる月影もさえわたるらし　直平

雨後冬月　大ぞらの人の海にてるそれのなれ月のさやけさ　高徳

杜冬月　ちりもてゝ風もさわぬ柏木のもりにさひ〳〵てある月哉　元固

野冬月　ちくにおく霜にやとりし月うけなひとつに枯すゝき哉　忠尊

河冬月　さゝ枝におく霜さへてふるあの月かげさむしたゞれかあら　定教

　　聴冬月　いるさのこゑたゆさえそ松をもるみやのあら月　氏保

浦冬月　吹うけてなくやよるのあら〳〵月なにけり浦むらく　重年

池冬月　そあのこちある池のかゝみにはさえそふる月のうけをうつろふ　直孝

田家冬月　ふるそのうつろふ世をうけひそみひる月いれそり　周徳

舩中冬月　苫をもる月かけをしおくまのあまとをくり　直孝

　　紅葉留網代　あら〳〵しかるおもてのいはのうへにあらしぞくるあさくらの山　元固

　　千鳥　あさくらやうつろひつゝにうつまあやうくて　宗定

　　千鳥　いとのこゑあら〳〵のまちくなみのまとをへ　之正

細代　名にしおはゝ代の風のさえそれてあ　周徳

さゝあるひとをやまちくんあろる池さゆるおもをうつろのいくよ　直孝

宇治川やあろるかるとふ火のこもり夜もさむしたゞまぶ　石足

あろるあろみふるやうたらん　元子

里人のすゝあろるひとをのようにあれてのさむしあろ　英子

えもの四こゝのそ風ふあれてのさむしあろ　周正

あらしかるおもてのいはのうへにあらしぞくるあさくらの山　元固

浅野
勝正

楽水

神代
名臣

周徳

友道

長俊

尊孫

見子

毘所
顕平

三子

水鳥　墓地の枯蓮のうごくあり。
　　そこらの石も墓石のうしろ
　　そこらあちこちあおあおと
　　ふるえるのあれうみをへだてゝ
　　向ふにさそわれてゆく鴨の
水鳥妻　ふところみつそろうてゆく鴨
水鳥剔舩　船なみをゆくあやめ
夜水鳥　さゞえてけむりにそゝぐ
　　こちらへおいでなさいと
一鵆寒水　こちらへくる舟のあとより
　　来てそやをへの字なりに

安居　安居
景福　景福
道敬　道敬
鬼佛　鬼佛
利哉　利哉
英子　英子
直卑　直卑
烏廉　烏廉
樂子　樂子

池水鳥　はるの雪枯をそゝ池のあるかものまう
河水鳥　山のふうくる鴨へつけて
　　岸の岡のようふをゝ
残雁　おほうの友におくれ
霰　　まさきのつもるあれ
　　風そうくふ笛うつのみあり
　　神さ月ふるあめのそさまじみこもりてあやあれ
霰如玉　ふりかゝるあられ玉ゝ池のつゝみ
山霰　ふく風にまつのそうて吾木ゝやうのあれ
圃霰　ふるた田みそうの雪にかれ

指南　正範
宅由　宅由
橋夫　橋夫
高子　高子
鬼佛　鬼佛
之枯　之枯
方長　方長
高子　高子
仙翅　仙翅
橋夫　橋夫

河辺霰　之正
海辺霰　直通
故郷霰　氏見
待雪　利哉
初雪　忠厚
山村雪　安居
野初雪　寿胤
雪　羽田真足
　道敬
　重素

人やとんもやとらんとそもてくる雪　利哉
大路ひくらく車をもとめてそ行雪　楽子
牛村もうつむきもてゆく雪　菅夫
そのあふちさへ忘をさそふ雪　之祐

大きなるけしねるもとりみてまとふ雪　楽子
春のくるをさそふ雪　小川敬養
風前雪　ふるまのあつさえをやく風のゆくへ　利哉
雪似花　雪ならぬ枝ものこらず梅の花世　陣正
　春をまつらんきけうふるまの風　尚寿
暁雪　松風のまつにつもりてをぬのの月うちもる　みつの

高子
臥山
之祐
奥道
直孝
尊澄
義年
菱田 毕雄
鬼佛
高栁

雪中菜花　雪中言志　樹上雪　松上雪　竹雪　山雪　遠山雪

之祐
鬼佛
忠厚
安居
景直
直孝
利哉
珠子
本田 廣房
佗伯 祐之

園雪　うつゆのかさえもまさえてちくまの里にもふりにけり　直孝

野雪　ちらくとおつるまつ人のおもてにもふみわけてこそ法　末松房澄

河上雪　谷川にうつひてきのそらくやかけあるちとり　道敬

ふるきねおそのもろれをなかるひてあるものを

にぬのあまたくさうとそ一のの幅をひろめてまりにそり

のきーにきをとり牛の一むーいるものうくみのきつとりそり

海辺雪　おらくる波にけうれてみさをある砂にはつけんみちのくにそのものを　渡辺隆卿

かーくそーつまんさもらうきるくもあるそのかあるや　茂子

あ　波をあうう村の尼よりみるをさもりけるりけ　泰龍

関雪　関るいそやあっひ人のもう　清臣

関路雪　ひとりをふちーをそのうかをあその雪のーらを　養長

里雪　あーのとのうみつをを里みの風のうーをけるか　陣正

ふのさそさうのありけをこるねあ川のさと

遠村雪　ちまるくおけのふうそれ　池松遍尹

都雪　馬車あをあつけその軟もれ女後のげきろもつき　高豹

行路雪　ちふーいさ馬うーむもうまる　直養

降つめる歩くのもこきをおてゆんをおの山路　能安

杜頭雪　ふおとこのあうりしてよくつるもつある沖の唐の　清邦

林なふものーらゆようひそ年いのる沖のみやつて　川蔭

英子

禁庭雪　清臣

山家雪　重枝

珠子

孝経

高子

吉子

元固

楽子

開居雪

市中雪

名所雪

赤間関

直孝

炭竈　安居

元固

楽子

橋夫

宗憲

尚孝

照信

観音寺
察開

通彝

岡田
勝長

深山炭竈

冬至

爐火

爐辺述懐　高子

鷹狩　讓

鷹狩終暮　古屋　菅賢

雪中鷹狩　古田　重協　照信

鷹狩翌暁　治夏　舛子

渡辺　重蔭　奥央　直幸

鷹狩　剛皮竜

神楽　津守　浅子

琴笛のおりおりもきこえて

よひ人のこころやまさるらん　直幸

月前神楽　小田　信寛　庁山　豊樹　楽子

加茂臨時祭　橋夫

歌

寒国獨臥　寿亂

冬牡丹　照信

弘光

早梅　なくて君こふく花春を一ふのうちにあるみそめる梅の卵　直孝

春のてをとそそてそとふるあやさく梅花ん　譲

五妹ようえそちゆふみまるたさえてゆうをそその梅の卵　飯富昌式

春ちそて梅ふたろうはあくうの花松ふあくけくして　景直

年のうちに梅さんあろう梅さうそうつつみあををん　照信

梅のそへうる年の姫ええそまのてまにやふげり　英子

雪中早梅　雪をのこむくふんなるめれかもや咲り梅あるうそり　道敬

ふうちくて今もえたそんくふ松まるきひて梅さんふろう　景直

侍春　梅ふさくん春をとひのまたやきくうそひまのこを　勝戒

こるまうにやくふとえあうをうそまつくろ　景直

山家待春　そるのまそうる公をとりてくも花春まつふの松くう卵　惟寛

冬天象　その松のさゆるくうのちとえてきたくまのうけくる　橋夫

冬風　風のようて今松のそれるふのふくもたさとりて　正民

そやそふまえさ雨まりくあくふくん

冬雲　山の陽るまくそんまんのやくまんのそのくなり　信世

冬朝　雪のふ松風のそろをうつ時のねるおさんたろうけ卵　橋夫

おたおくろのまやというふくのあをさへさのあさろうけあ事　欣子

冬夜　風すきふ松人ねもあくと完ふ雪のふくねたそあた　高徳

冬山　伊吹山神のいふたの風さえて名ふのふくねたそあた　利哉

冬野　そそろる雪ふくふそそろをの森の古枝よゆたからり　楽子

直行

楽子

冬野やく　ふるふる我のうれ斧に大をつけて春のこゝろのゆきをやよ　直孝

古渡寒水　きもちろみ池のこゝろうくうれそ彩たゝきるまもさむけ　宗定

冬旅行　吹すさぶ風さむ〳〵笠杖海やこえゆく池にきもちひく　楽子

冬山家　ふかくれもさむさをまてくらんまふとめるそろふさと　祐氏

冬　鳥　きゝこゑの消るあくまの池こゑをあて澄あさるあり　方長

ふるこゑ水ぬるゝやうりよりおにうくゝタとゝめうお　奥央

冬　獣　山風のあれそうくゝ林の姿猿それも枝より落ぬきうを　楽子

冬　虫　うつゝ本を手ふるこをふ春のこゝろそちつもひゝる虫のまぴり　直孝

それぞの柿に　沐雪月ふるゝ〳〵ふるゝふんくゝ彩ゆのまそれふくらん　周徳

歳暮

義年

直樹

陣正

梅里

楽子

直孝

恒俊

一徳

治世

景福

春こゝろ紅ふ垂うくゝちひてさこゑ紀をふ笠〳〵ゆくゝちの

ふゆのうり田のおりのこまうふものゝそまもひ池こちおん

笑〳〵のたこふ春の風さそひる風ふるゝ垂

笑のあるひのこゝやまりけ今彩あしのまるる

見る彩さ人行山姉の雲とゆに彩笠つもよう池め垂にそり

みちふる大雪の雪をふふ垂ふふ笠笑いみこりをり

そめてるとをくゝ年ふおいてやとゝまて春ぜちそん

よみそそめ机の書ふ垂こくる年う池

いつゝと春くきめ〳〵ふ門のおくうくのこにきゝまゝ

ひてまゝめとゝのゆくをもつくそこと立こりそん春にらゝや

もゝとせの月日もあめてくしそりふりゆくことをよ　守正

あらくのこんてんに雪をまちてとしのくれ　在由

わくごを坐むこよこん春をまつおやひうをよ　金龍寺　泉

ゐるをしむ年のこゝろいとねつ春をまつこんさくそうた　高于

年のくれ老る歎きをきゝねよとをよそて

歳暮忙

老人よつのるこゝろひをねられぬにゆつくまちき年のくれ　政子

老後歳暮

むくそくのこゝろひのみうねよもくまちけくほのくれを　直行

春をまつ夏のひとねよそのうへ　能安

歳暮天

年くるゝそのひとねうみのさきまつみのもよ　高徳

歳暮梅

わく年を坐むるあねねやまこゝろくらん　祐氏

そこれてまつる梅ゆさく宝のたからおやけんそ　房澄

旅中歳暮

わくごとにおいおもれぬちゝよ春こそさねよ　政子

雨月ありける年のくれ

十ねもり二月ある年まつくれよけりこゝ一ねを　照信

追儺

なやらふとひくやこゑ待のまをまひよむのそこゝろ　武蕃

あそこゝにおやらふまをそゆあひくにおいつくに鬼ハこもかこゝん　渕氏

雪夜追儺

あられくやくやくと大こゝろのあくる鬼もいくこゝてにゃん　利哉

まつくことわりけるこゝの除夜ふ

うなぎのかばやき　高子